

宗派 日本に伝来した仏教は時代とともにいくつもの宗派が誕生する

日本の仏教は大きく分けて 13 宗

天台宗 てんだいしゅう 開祖 最澄 代表寺院 延暦寺（滋賀県）

唐に留学して仏教を学び、帰国後に比叡山に延暦寺を建立した最澄が開祖。一切衆生はみな成仏できるが、それには諸法実相を見極めることが重要と説く。延暦寺では後に日蓮ら鎌倉新仏教の祖師たちも学んだ。

真言宗 しんごんしゅう 開祖 空海 代表寺院 金剛峰寺（和歌山県）

高野山金剛峰寺を総本山とする宗派。最澄同様、唐へ留学し密教を日本に伝えた空海（弘法大師）が開祖。大日如来を根本仏とし、この世に生きるこの身のままで成仏できる“即身成仏”を目指すと言説。

律宗 りっしゅう 開祖 鑑真 代表寺院 唐招提寺（奈良県）

何度も船が難破しながらも日本に渡ってきた唐の高僧・鑑真が宗祖。いわゆる南都六宗の一派。戒律の研究と実践を行うことを重視。大乘仏教の慈悲の実践、すなわち十重禁戒と四十八の軽戒を定めている。

浄土宗 じょうどしゅう 開祖 法然 代表寺院 知恩院（京都府）

鎌倉仏教の代表的な宗派の1つ。中心となる仏は阿弥陀如来で教義は専修念仏が中心。南無阿弥陀仏を称えることで阿弥陀如来の西方極楽浄土へと往生できると説き、主に庶民の間で広まった。

臨済宗 りんざいしゅう 開祖 栄西 代表寺院 妙心寺（京都府）

もとは中国禅宗の一派で、はじめて栄西が持ちこんで以来、日本でも広まった。多くの問答を繰り返したうえで、その真意を悟ることによって、何物にもとらわれない自在な人間性を確立していこうとする。

曹洞宗 そうとうしゅう 開祖 道元 代表寺院 永平寺（福井県）

宋から帰国した道元が開いた禅宗の一派。修行と悟りは一体であるとし、只管打坐（しかんたぎ）の教えに基づいて厳しい座禅修行を行う。永平寺の厳しい修行は特に有名。地域社会との密接な結びつきも求める。

黄檗宗 おうばくしゅう 開祖 隠元 代表寺院 萬福寺（京都府）

姿性と呼吸、そして心を整え、参禅することによって誰しものが生れながらにして持つ仏心を見出し、安心立命を得るという教え。京都の萬福寺など、黄檗宗寺院は伽藍が中国風でエキゾチックな雰囲気が漂う。

浄土真宗 じょうどしんしゅう 開祖 親鸞 代表寺院 本願寺（京都府）

仏教に興味を示さないような人間が自らの愚かさに目覚め、仏道に立つためには「大無量寿経」という教えのほかにないとす。親鸞は法然の教えをさらに発展させ、「悪人正機」など独自の注釈を加えた。

日蓮宗 にちれんしゅう 開祖 日蓮 代表寺院 久遠寺（山梨県）

本門の本尊を信じ、「南無妙法蓮華経」とお題目を唱えることによって本仏の教えを立証する。祖師・日蓮はたびたび他宗を攻撃したため、何度も法難に遭ったが、庶民を中心に教えが広まった。

時宗 じしゅう 開祖 一遍 代表寺院 清浄光寺（神奈川県）

祖師の一遍は、「南無阿弥陀仏」の名号を記した念仏札を人々に配る遊行の旅に出たことで知られ、また踊念仏は今に続く。

融通念仏宗 ゆうずうねんぶつしゅう 開祖 良忍 代表寺院大念仏寺（大阪府）

浄土教の宗派の一つ。総本山である大念仏寺は日本初の念仏道場として知られる。日々念仏を唱え、阿弥陀如来の本願力を一体化し、現世の喜びがあふれ、知慧の輝く楽土を建設することを目指す。

法相宗 ほっそうしゅう 開祖 道昭 代表寺院 興福寺（奈良県）

一切万法は私の心から生み出されたものであるとする、唯識所変（知識とはただ識ばかり、という意味）の教えを説く。阿修羅像で有名な興福寺や薬師寺など、古都奈良には法相宗の大寺院が現在も多く残る。

華嚴宗 けごんしゅう 開祖 良弁 代表寺院 東大寺（奈良県）

宇宙の中のすべては互いに交わりながら流転しており、一つの中に一切を含み、一切の中に一があまねく満ちているとする教え。奈良の大仏で知られる東大寺が中心寺院で、聖武天皇の詔によって造営された。